

元気です。厚高

進路状況

厚真高校の進路決定状況をお知らせします。
今年三月の卒業予定者は、男子二十二名、女子十五名の計三十七人で、その内十二人が進学希望、二十五人が就職希望でした。

「四大進学者大幅増」

今年度は、AOや指定校推薦、公募推薦、一般受験ともに、多くの生徒が早期に志望校への合格切符を手に入れました。
今年の傾向として顕著なのは、例年数人に留まっていた四年制大学への進学が大幅に増えたことです。一、二年生の時期から進学ガイダンス、体験入学に積極的に参加して意欲的に情報収集し、日々目的意識を持って検定取得や成績向上に努めていた成果が現れたと考えられます。
また、難易度の高い学科の試験に臨むために、例年よりも積極的に模擬試験を活用しました。

ボランティア部

今年度は、三年生六名、二年生六名、一年生七名の計十九人で活動してきました。それぞれが、興味を持って活動が無理なく行うというスタンスで活動しています。

主な活動は、千歳市の夜間託児ボランティアをはじめ、田舎まつりで社会福祉協議会に協力した出店ボランティアや町文化祭での自主活動の出店ボランティア、町内の高齢者福祉施設で開催されるお祭り補助などです。特に町文化祭では、やきそばと豚汁の販売を行いました。また、三年生がリーダーシップを発揮し、計画から当日の運営まで頑張ってくれました。下級生も個々の役割を考え、積極的に取り組む姿が見られました。このように一年間を通じてさまざまな形で奉仕の精神を養っています。
また、今年度は学校周辺のゴミ拾いや高文連大会参加など、部員全員での活動もできたのは大きな成果だと感じています。

課題としては、活動が一部の積極的な部員の取り組みに偏っている傾向があるので、ボランティア部員全体の意識向上が挙げられます。生徒には、自分の興味ある活動に積極的に参加し、さまざまな役割をこなしながら、多くの人たちと関わり、視野を広げてほしい

「不況下での就職活動」

本校の生徒は、就職に関しては地元志向が例年強い傾向にありません。ところが、未曾有の世界的な不況の影響を受けて秋以降、道内の求人数は激減しました。
二月二十日現在の就職状況は、厚真町内三人、苫小牧市内九人、

	学校名	受験方法	所在地
大 学	北海道工業大学	指定校推薦	札 幌
	札幌国際大学	指定校推薦	〃
	札幌大学	一般推薦	〃
短期大学	北海道情報大学	指定校推薦	江 別
	北海道文教大学	AO	恵 庭
	北海道自動車短期大学	指定校推薦	札 幌
専門学校	北海道職業能力開発大学校	一般受験	小 樽
	札幌商工会議所付属専門学校	指定校推薦	札 幌
	経専調理製菓専門学校	一般推薦	〃
	北海道調理師専門学校	指定校推薦	〃
	専門学校北海道福祉大学校	一般推薦	〃

就職先	所在地	就職先	所在地
トヨタ自動車北海道(株)	苫小牧	榊第一滝本館	登 別
中予精工(株)	〃	カラカミ観光(株)	札 幌
南クレエ	〃	自衛隊	道 内
丸一苫小牧中央青果(株)	〃	榊果夢工房	むかわ
榊三星	〃	いぶり農業共済組合	厚 真
榊ザ・ニドム	〃	南安愚楽牧場	〃
榊グランビスタホテル&リゾート	〃	農業	〃
榊太陽グループ	札 幌	その他	苫小牧
阪南理美容(株)	〃		

その他、道内で八人が決定しています。
就職活動は、スタートダッシュできるかどうか肝心です。今年度は、求人票公開が始まる六月から就職活動開始の九月ごろまでは、求人数は例年並みであったため、春の段階で目標を定め、夏休み期間中に面接練習などの受験対策

部活動について (今回は文化部を紹介します)

ESS

ESSは、今年度も十月下旬に行われた町のハロウィンパーティーのお手伝いをさせていただきました。パーティーでは他の地域のALTの方々やたくさんの子どもたちとゲームなどを通して交流することができ、とてもよい経験になりました。

日常の活動は週二回ALTと英検対策やゲームなどの交流を行いながら英語力の向上を図っています。二月四日には三年生のお別れパーティーを行い、別れを惜しみ



ハロウィンパーティーにてたくさんのALTと一緒に

策をするなど、計画的に準備を重ねていた生徒が比較的早期に内定通知を手に入れました。

また、今年度は苫小牧管内において、地域の企業が合同で試験を行う就職促進会が、十月と二月の二回行われました。この取り組みには、本校からも多くの生徒が参加し、一定の結果を出すことができましたが、昨年度と比較すると就職希望者の割合が大幅に増え、また、後半の不況の影響が追い打ちをかけたため、残念ながら現段階では、希望者全員の就職先確定には至っていません。
しかし、最後まで諦めずに何度でも挑戦することが内定へ着実に

繋がります。強い気持ちを持ってこれからも就職活動に励んで欲しいものです。

「卒業後の意識」

こうした不況下の状況では、ともすると内定という結果を出すことに意識が向いてしまいがちですが、結果を出すことがゴールではありません。

進学する生徒、就職する生徒、ともに大切なのは結果を出した後の気持ちの持ち方なのです。目的意識を明確にして常に自分を成長させる意欲を持ち続け、社会の荒波に飛び込んでいって欲しいと思います。

ました。部員の大半が三年生で引退してしまつたため、た。今新入部員を大募集中です。

と願っています。



笑顔いっぱい！全員集合！！

写真部

六月、札幌へ「よさこいソーラ祭り」の撮影に行きました。この活動は毎年行っているもので、今年度も良い写真が撮れました。七月の学校祭では、それまでに撮りためた写真の中から自信作を展示しました。九月には高文連苫小牧支部写真地区大会が苫小牧市文化会館を会場に開催されました。午前中は会場近くの文化公園で撮影会をおこない、午後はその講評と苫小牧写真連盟会長の林広志氏の講演を聴きました。また、二百七十点に及ぶ出品作品の中から入選作品四十四点が発表され、本校二年の山口祐貴さんと齊藤睦さん二人の作品が入選しました。

しかし、全道大会の参加資格を得たのですが、学校行事等の関係

で残念ながら全道大会に行くことはできませんでした。また、その作品は十一月の町文化祭にも展示させていただきました。そして、二月には「小樽雪あかりの路」の撮影に行つたのですが、あいにく、前日からの雨の影響で良い写真を撮ることはできませんでした。
今年度の主な活動を簡単に順を追って紹介しましたが、現在部員が二人しかいなく、四月にはぜひ新入生を迎え入れたいと思います。



山口祐貴さんの作品「振れ!!」



齊藤睦さんの作品「自転車と人と影」

自然科学部

自然科学部は、石狩低地帯南部の最終氷期の環境変遷史の解明を目指して研究を進めてきました。生徒たちはローム層の中に含まれ

る小さな鉱物を顕微鏡で観察して種類を判定しその組成を調べるという根気のある作業に時間をかけて取り組み大きな成果をあげ、さまざまな機会に公表する事ができた実り多い一年でした。五月に日本地質学会北海道支部総会(札幌)で口頭発表、八月に地学団体研究会総会(東京)でポスター発表、十月に北海道高文連理科研究発表大会(釧路)で口頭発表とポスター発表、またサツポロフアクトリイを会場に開催されたジオ・フェスティバルでの一般向け普及活動と、多くの場でこれまでの研究成果を発表しました。



高文連大会(釧路)ポスター発表会場にて

特に、北海道高文連理科研究発表大会では優秀ポスター賞を受賞するなど高く評価される機会もあり、充実した活動を展開することができました。主力の三年生が卒業し、来年は新しい体制で新たな成果を目指し研究を継続してゆく予定です。野外調査をするときに

美術部

今年の美術部は、三年生四人、二年生五人、一年生三人の計十二人で活動してきました。

目立った大会成績はありませんが、学校祭前はほとんど毎日活動し、自分たちなりのオリジナリティあふれる作品(油彩、スケッチ画、塑像、彫像など)を制作し発表しました。現在は活動場所として和室の作法室を使用しています。大きな作品を製作するにはあまりふさわしくない部屋ですが、和の伝統をイメージさせるといふメリットもあります。

今後の活動としては、月ごとのテーマを決めて作品を作ったり、複数で共同制作できる大型作品が発表できればよいと思います。



個性あふれるメンバーたち